

時短エクセル(第7回)

年齢や勤続年数を自動更新にするExcel技

2018.07.02

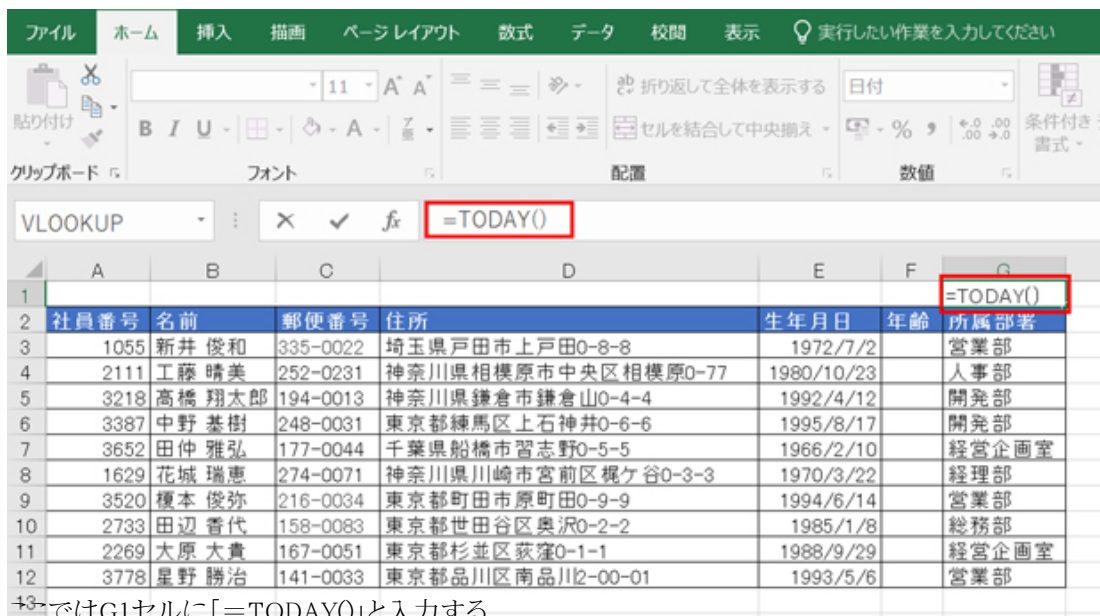
社員名簿には生年月日や入社日などの欄があるだろう。しかし、年齢や勤続年数を手入力してしまうと、毎年更新しなければならず非常に手間がかかる。

今回は、関数を使って生年月日から現在の年齢を自動的に計算する方法を紹介しよう。入社日から勤続年数を計算するのも同じ要領でできる。

※当記事では練習用のサンプルファイルがダウンロードできます(ページ下部)

まずはTODAY関数で現在の日付を表示しておく

生年月日から年齢を自動計算する際、いつ現在の年齢を表示させるか、その基となる日付が必要だ。TODAY関数を使って、自動的に本日の日付が表示されるようにしておこう。



	A	B	C	D	E	F	G
1							=TODAY()
2	社員番号	名前	郵便番号	住所	生年月日	年齢	所属部署
3	1055	新井 俊和	335-0022	埼玉県戸田市上戸田0-8-8	1972/7/2		営業部
4	2111	工藤 晴美	252-0231	神奈川県相模原市中央区相模原0-77	1980/10/23		人事部
5	3218	高橋 翔太郎	194-0013	神奈川県鎌倉市鎌倉山0-4-4	1992/4/12		開発部
6	3387	中野 基樹	248-0031	東京都練馬区上石神井0-6-6	1995/8/17		開発部
7	3652	田仲 雅弘	177-0044	千葉県船橋市習志野0-5-5	1966/2/10		経営企画室
8	1629	花城 瑞恵	274-0071	神奈川県川崎市宮前区榎ヶ谷0-3-3	1970/3/22		経理部
9	3520	榎本 俊弥	216-0034	東京都町田市原町田0-9-9	1994/6/14		営業部
10	2733	田辺 香代	158-0083	東京都世田谷区奥沢0-2-2	1985/1/8		総務部
11	2269	大原 大貴	167-0051	東京都杉並区荻窪0-1-1	1988/9/29		経営企画室
12	3778	星野 勝治	141-0033	東京都品川区南品川2-00-01	1993/5/6		営業部

ここではG1セルに「=TODAY()」と入力する

「=TODAY()」は、本日の日付を表示する関数だ。引数は不要なので、()内には何も書かなくてよい。

	A	B	C	D	E	F	G
1							2018/5/13
2	社員番号	名前	郵便番号	住所	生年月日	年齢	所属部署
3	1055	新井 俊和	335-0022	埼玉県戸田市上戸田0-8-8	1972/7/2		営業部
4	2111	工藤 晴美	252-0231	神奈川県相模原市中央区相模原0-77	1980/10/23		人事部
5	3218	高橋 翔太郎	194-0013	神奈川県鎌倉市鎌倉山0-4-4	1992/4/12		開発部
6	3387	中野 基樹	248-0031	東京都練馬区上石神井0-6-6	1995/8/17		開発部
7	3652	田仲 雅弘	177-0044	千葉県船橋市習志野0-5-5	1966/2/10		経営企画室
8	1629	花城 瑞恵	274-0071	神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷0-3-3	1970/3/22		経理部
9	3520	榎本 俊弥	216-0034	東京都町田市原町田0-9-9	1994/6/14		営業部
10	2733	田辺 香代	158-0083	東京都世田谷区奥沢0-2-2	1985/1/8		総務部
11	2269	大原 大貴	167-0051	東京都杉並区荻窪0-1-1	1988/9/29		経営企画室
12	3778	星野 勝治	141-0033	東京都品川区南品川2-00-01	1993/5/6		営業部

これで、ファイルを開くたびに本日の日付が自動的に表示される

ちなみに、関数を使わずに簡単に本日の日付を入力する方法もある。「Ctrl」キーを押しながら「;」（セミコロン）キーを押すと、本日の日付を即座に入力できる。「Ctrl」+「:」（コロン）は現在の時刻を入力するショートカットキーだ。セットで覚えておくと時短になる。

もちろん、今日の日付でなく、来年の4月1日現在の年齢を知りたいければ、その日付を手入力しても構わない。

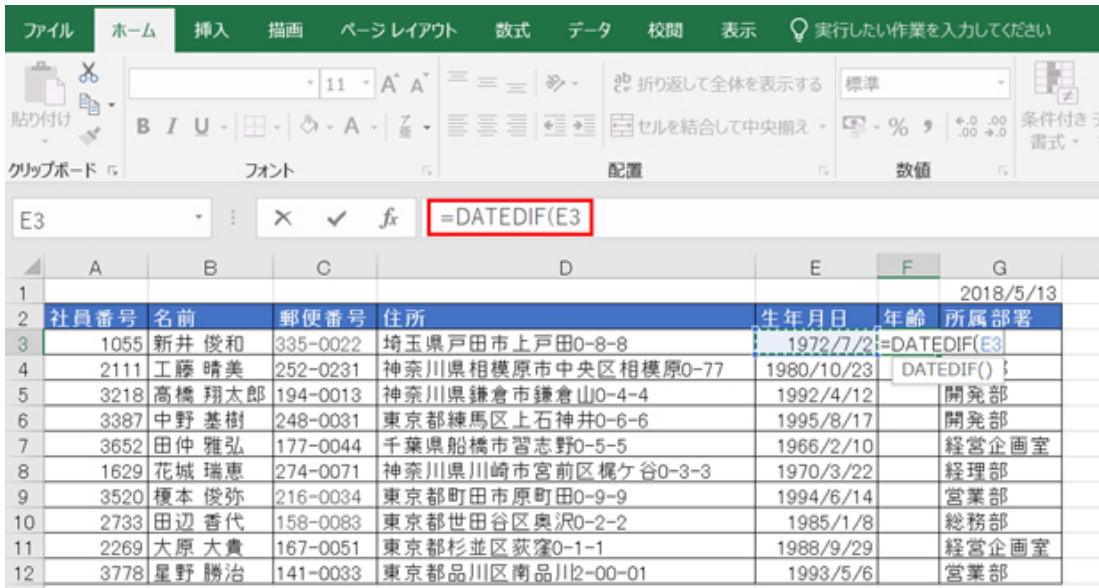
基準となる日付から自動的に計算するDATEDIF関数を使う

F3セルに、関数を入力する。年齢を計算する際には、期間の長さを調べる「DATEDIF(デイトディフ)」関数を使う。

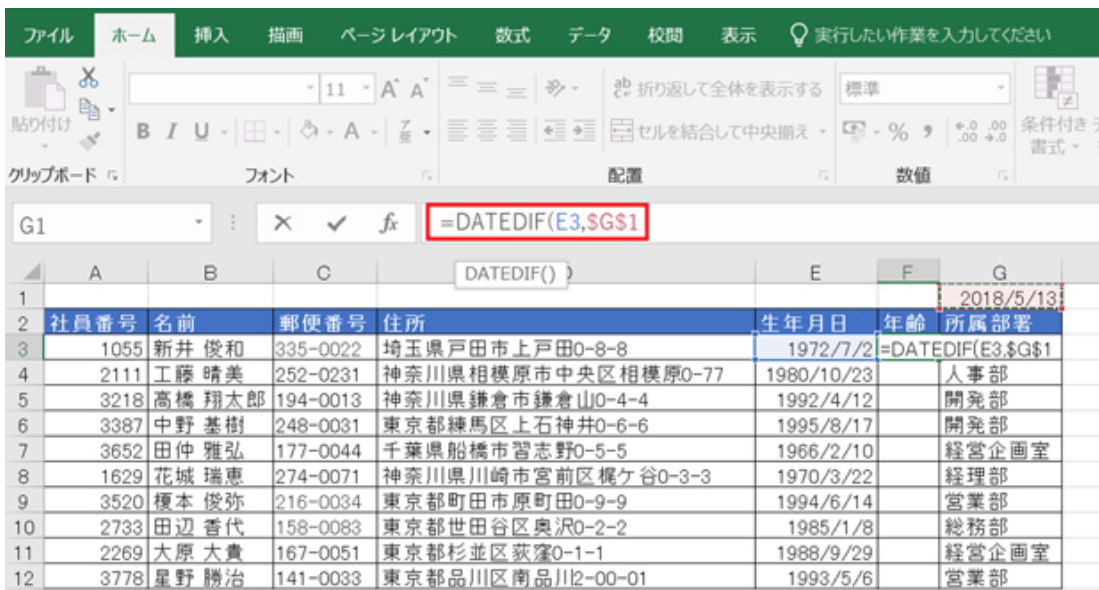
DATEDIF関数は、「=DATEDIF(開始日,終了日,単位)」という引数で成り立っている。「開始日」は生年月日、「終了日」は今日の日付、「単位」は年とする。年は「Y」(Year)、月は「M」(Month)、日は「D」(Day)で表す。

	A	B	C	D	E	F	G
1							2018/5/13
2	社員番号	名前	郵便番号	住所	生年月日	年齢	所属部署
3	1055	新井 俊和	335-0022	埼玉県戸田市上戸田0-8-8	1972/7/2	=DATEDIF(
4	2111	工藤 晴美	252-0231	神奈川県相模原市中央区相模原0-77	1980/10/23	DATEDIF()	
5	3218	高橋 翔太郎	194-0013	神奈川県鎌倉市鎌倉山0-4-4	1992/4/12		開発部
6	3387	中野 基樹	248-0031	東京都練馬区上石神井0-6-6	1995/8/17		開発部
7	3652	田仲 雅弘	177-0044	千葉県船橋市習志野0-5-5	1966/2/10		経営企画室
8	1629	花城 瑞恵	274-0071	神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷0-3-3	1970/3/22		経理部
9	3520	榎本 俊弥	216-0034	東京都町田市原町田0-9-9	1994/6/14		営業部
10	2733	田辺 香代	158-0083	東京都世田谷区奥沢0-2-2	1985/1/8		総務部
11	2269	大原 大貴	167-0051	東京都杉並区荻窪0-1-1	1988/9/29		経営企画室
12	3778	星野 勝治	141-0033	東京都品川区南品川2-00-01	1993/5/6		営業部

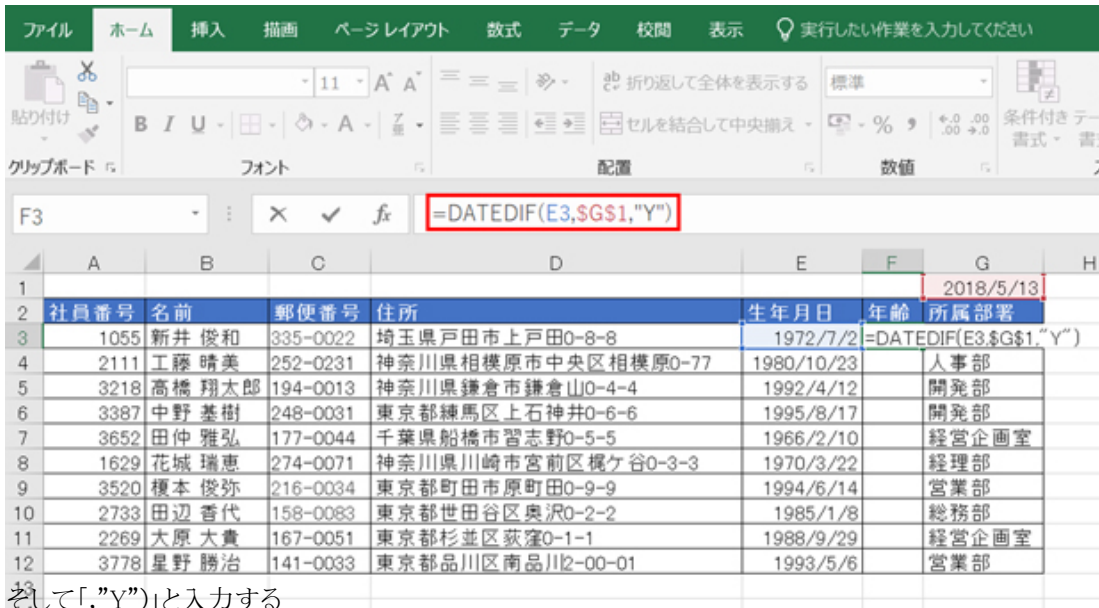
まずは、F3セルに「=DATEDIF(」と入力



次にE3セルをクリックすると、自動的に「E3」と入力される



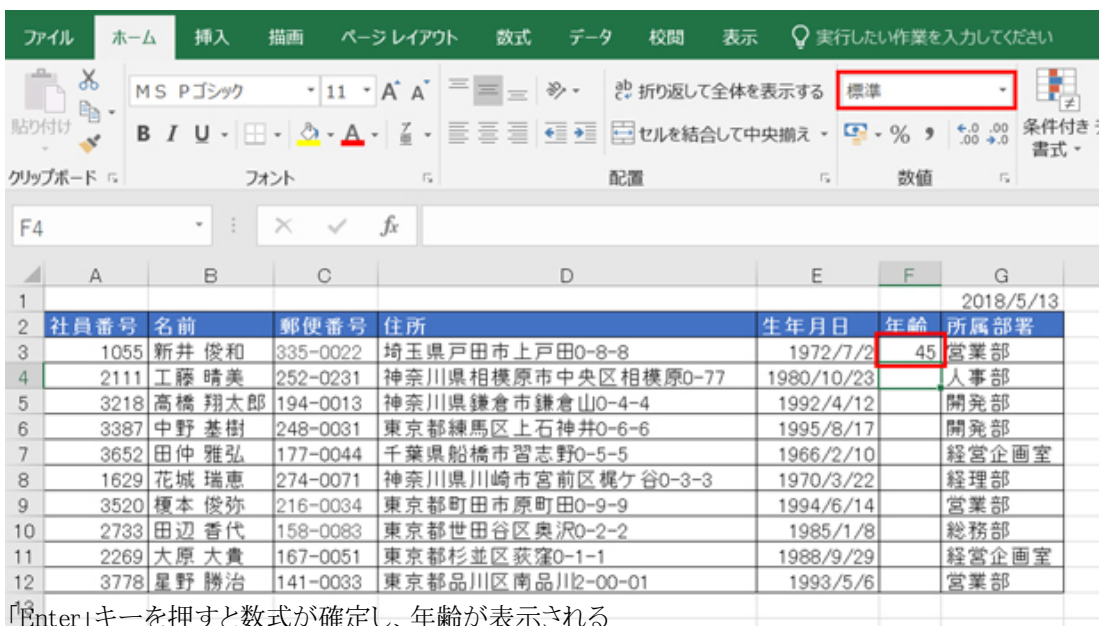
「E3」の後ろに「,」（カンマ）を入力し、G1セルをクリックして「F4」キーを1回押す



として、「Y」と入力する

F4キーを押すのは、セルをコピーしたときに参照先のG1セルがずれないようにするため。生年月日はそれぞれの行で自動的にずれてくれてOKだが、G1セルはどのセルでも変更されないよう、絶対参照しておく必要があるからだ。

これで、生年月日から本日までの年数を自動的に計算し、表示してくれる。もし、表示が1900/2/14などとなってしまったら、「ホーム」タブの「表示形式」で「標準」を選択しよう。すると、適切な年齢が表示される。



「Enter」キーを押すと数式が確定し、年齢が表示される

数式をコピーして表を完成させる… 続きを読む